

ワカヤマソウリユウの全身骨格模型が完成

昨年5月から3Dプリンタで制作を進めてきたワカヤマソウリユウの全身骨格模型が完成し、吉備地域や清水地域の文化祭をはじめ、各地のイベントで展示を始めています。

この模型は、昨年度に和歌山県が制作した全身骨格のデータを借用し、有田川町独自で持ち運び可能な模型として制作したものです。町内はもちろん、町外の各種イベントにも持ち出して展示することができ、人を集める

情報発信媒体として今後の展開が見込まれます。

これまでの報道などを通じて「ワカヤマソウリユウ」の認知度は、町外や県外でも徐々に高まってきています。この模型は、ワカヤマソウリユウとその発見地である有田川町の魅力を発信し、注目度の向上を図る目的で活用することが期待されます。



● イベントに出展します

ワカヤマソウリユウの全身骨格模型は、全長約6.5メートル、高さ約2メートル、重量約25キログラムで、分解すると軽自動車（バンタイプ）での運搬が可能です。組み立てや片付けは、2人で10分程度と簡便です。ご要望があれば、各地のイベントへ出展することができます。

模型はプラスチック製で、軽量ながら十分な強度を備えており、見学者が触れても問題ありません。通常、このような化石の骨格模型が展示されている博物館などでは、展示物に触れる機会が少ないため、写真撮影やインパクトのある展示としても効果的にご利用いただけます。

イベントなどでのご利用を希望される場合は、お気軽に地域交流センター（ALEC）までご相談ください。

